



真夏の太陽がキラキラと照りつける湖面を、すごいスピードで飛び回るトンボがいます。「ギンヤンマー」です。大きさは7センチメートルくらい。頭部と胸部は黄緑色、腹部は黄褐色をしています。オスの腹部は、付け根辺りが水色なのが特徴です。メスの腹部は水色の部分がありません。オス、メスともに腹部の下側が白っぽい銀色に見えるのが名前の由来です。

飛ぶ能力がとても高く、平均時速60キロメートルもの速さで、縄張り内をパトロールしています。空中で停止することもできます。ずっと素早く飛び回っていてなかなか止まらないので、写真を撮るのも一苦労です。

オスは、他のトンボが近づいてくると旋回して追い払いに行く一方で、縄張りに入ってきたメスを見つけると、前後につながって水辺の植物にとどまります。メスは腹部の先端にある産卵管を水草の茎に突き刺し、植物の組織内に卵を産み落とします。

水や泥の中に卵を産み落とすよりも、安全な方法で子孫を残すなんて、そのスマートな生き方には脱帽です。

猛スピードでパトロールーギンヤンマーー

陶史の森からのご案内

バードウォッチング（自由参加）

7月26日（日）、8月23日（日）

午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堤防です。

草木染め教室（要申込 定員10人）

9月26日（土）午前9時～11時

ネイチャーセンター ※染めるためのハンカチ大の白い布を持参

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)

第27回 地域とつながり土岐の子どもを育む

美濃陶磁歴史館では、市教育委員会と連携し、土岐の子どもたちのふるさと教育に取り組んできました。それは平成29年度から開始した「ふるさと発見体験事業」で、市内の全小学校の1学年が、美濃陶磁歴史館や周辺史跡を見学しながら、土岐市の歴史や美濃焼を学ぶプログラムです。

令和6年度には、これまでのプログラムに加えて、美濃焼に関連する場所の見学を追加し、新たな形で取り組みを進めています。見学場所は、製陶工場や伝統工芸士の工房、駄知線跡（観光ガイドの会のご案内）、陶磁器試験場の中から、学校が選択できるようになっています。

昔の窯跡と製陶工場の両方を見学するといった体験により、子どもたちが地場産業としての美濃焼について、より理解を深めることができるようになりました。子どもたちの貴重な経験は、地域の方々のご協力によって成り立っています。

そして、今年度からは、中

学校向けに岐阜県現代陶芸美術館と連携した出張授業もスタートします。これは、市内の全中学校の3年生が、原料サンプルや実物に触れながら美濃焼を学ぶプログラムです。地域との連携は博物館の重要な役割でもあります。今後、学校と連携しながら、土岐の子どもたちのふるさと教育のより一層の充実を図っていきます。ご協力をお願いします。



出張授業の様子



工場見学の様子